



あみだくじ

この暑さはどうにかならないものか。そんなことを考えていると、数人の学生が連なり、研究室にやって来た。自分の生き方に悩みがあるという。経験上こういったときは部屋の中より、散歩しながらの方がうまく話を聞き出せることが多いのでキャンパス内を歩きながら聞く

ことにした。

ペットボトルを握り締めて木陰伝いに歩いていると、彼らは悩みを打ち明け始めた。内容はオジサンの私にとってみれば「なんだ、そんなことか」とも思えたが、彼らの真剣に悩む様子を見て、少し立ち止まって考えた。内容は「自分の生き方はブレているのではないか」ということだった。いわく、自分の考えと向き合ったときに、昨日は正しいと思っていたことが、今日は許せなくなることがあるという。だから自分は移り気でブレているのだと。だから進路も定まらないと。

確かに、言い直しが利きづら

い時代だ。考えが変わりましたなどと言おうものなら、すぐにたたかれてしまう。先の読めない時代に終始一貫した考えを求めることがどれだけ不毛か。

「変わらずに生きるために、人間は変わり続けてきた」という言葉を思い出したので学生に伝えると、冷たい空気がスウッと流れ、さっきまでの晴天がうそのように曇り始め、あっという間に夕立に見舞われた。雨の中を慌てて建物に戻り、急いでぬれた体を拭きながら一息つく、「天気もコロッと変わりましたね」と学生の一人が言う。それを聞いて急に皆が笑い始める。

人生なんてあみだくじのように右往左往した方が面白いに決まっている。人間は変わる、それを人は成長というのだ。ただし、そこには多少の覚悟も必要であることを伝えた時の学生の顔は間違いなく変わっていた。この出来事をコラムにして良いか聞くと快諾してくれた彼らに、明日はどのような変化があるのだろうか。オジサンは楽しみでならない。

たかみ・だいすけ 日本文理大 人間力育成センター長。専門は初年次教育、ユースワーク、ボランティア論。別府市在住。40歳。